

市原広域支援センターの指定に係る意向調査結果

平成23年9月10日

	調査内容	帝京大学ちば総合医療センター	白金整形外科病院	五井病院
問1	指定を受ける意思	ない	ある	ある
問2	届け出ている診療報酬算定の施設基準		脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
問3	施設の開設者		医療法人	医療法人
問4	病床数		128床(一般病床50床、回復期リハビリテーション病棟78床)	118床(一般病床84床、療養病床34床)
問5	リハビリテーション施設の広さ(リハ専用)		219.98㎡	203.6㎡
問6	リハビリテーションに従事する職員数	リハビリテーション専任医師	6名(常勤)、うち臨床認定医5名	3名(常勤)
		理学療法士	58名(常勤)、1名(非常勤)	9名(常勤)
		作業療法士	31名(常勤)、3名(非常勤)	5名(常勤) 0.5名(非常勤)
		言語聴覚士	5名(常勤)	2名(常勤)
		ソーシャルワーカー	4名(常勤)	2名(常勤)
問7	地域の関連機関との連絡・相談窓口の有無		あり 医療相談部	あり 地域医療連携室
問8	患者さんの退院等において、紹介・相談している地域の関係機関		列挙した機関全て	列挙した機関全て
問9	千葉県共用医療連携パス(脳卒中)の導入状況		導入している	導入している
問10	市民に対する公開講座や情報提供等〔22年度実績〕		・HP、パンフレット、院内掲示等により情報提供。 ・地域向け講座の依頼があれば対応している。(H22年度の実績なし)	H23.3.18 家族介護教室「脳血管障害とリハビリ」
問11	市原保健医療圏の医療を取り巻く状況についての認識		・高齢化率は20.8%であり、骨折や脳卒中などリハビリテーションが必要となる患者が増加する。また、65歳以上では女性の比率が高く、骨粗鬆症になりやすい患者も増加する。	・高齢化率は20.8%と概ね全県平均だが、今後急速に高齢化が進むと予測され、脳血管疾患の患者数も増加すると予測している。
			・圏域内では急性期病院が3施設あるが、回復期リハ病床は当院の78床のみで、人口10万対当たりでは50床の約半分と少ない。	・リハ関連施設は、回復期リハビリテーション対応医療機関等を含め、不足していると考えている。
問12	上記の状況認識を踏まえ、広域支援センターとしてどのような事業が出来るか考えるか		・当院は、現在まで回復期リハ病床や亜急性期病床を運営してきた実績や経験を広域支援センターの活動に活かすことができると考えている。 ・当院では、チーム内の連携及び地域での連携を大切にしており、患者にリハビリテーションをシームレスに提供し、その効果をあげる連携システムを築いている。	・限られた医療資源を効率よく活用できるよう、急性期対応医療機関から回復期リハビリテーション対応医療機関・療養施設・介護老人保健施設等・在宅サービスまで、情報の共有と連携が必要である。
			・チーム内では、入院リハ、外来リハ、通所リハ、訪問リハ等により、身体機能の向上を目指すとともに、獲得した身体機能が逆戻りしないよう努力している。 ・地域の医療機関と連携し、大腿骨骨折や脳卒中の連携が進んでいる。	・そのため、情報の共有と連携ができる体制を整備すること及びその活用を促進すること。 ・また、地域の医療機関と行政機関等との連絡・調整に積極的に取り組みたい。
問13	リハ従事職員を巡回指導相談等に派遣するなどの体制はあるか		支援体制があると考えている	支援体制があると考えている
	備考		・当院は、千葉県共用脳卒中地域連携パスの作成・普及等においてワーキンググループメンバーとして参加しており、パスの課題である地域生活期での連携について、地域リハ事業の中で、地域に根差した連携が構築できるようネットワークづくりに力を入れていきたい。 ・当圏域は市原市のみであり、行政機関(市役所・健康福祉センター)との連携が取りやすいと考える。	